

Monday 13 June 2011

09.00 – 12.00

J. 5 MODERN JAPANESE TEXTS, 2

Answer ***BOTH*** sections

Write your number **not** your name on the cover sheet of **each**
Answer Book.

STATIONERY REQUIREMENTS

20 Page Answer Book x 1

Rough Work Pad

You may not start to read the questions
printed on the subsequent pages of this
question paper until instructed that you
may do so by the Invigilator

SECTION A

1 Translate the following passage from an unseen text into **English**. [40 marks]

わたしは毎朝、八時ちょっと前にアパートを出て、アスファルト道路のむこうの駅から、郊外電車で都心の勤め先にかよっています。勤め先は、主にトラックの急行便を扱っているあまり大きくない運送会社で、わたしはそこで発送課の仕事をしています。そこへ勤めるようになったから、今年で三年目です。

その前は、学術書を出す出版社の業務部にいました。学校を出て、すぐそこに入ったのですが、そこは一年とちょっとで潰れてしまいました。妻と結婚したのは、この出版社にいたころです。そして社が潰れるころには、妻は子供を産む身になっていました。わたしは潰れたあとの残務整理でしばらく居のこることになりましたが、どうせ次の勤め口のあてもなく、一旦郷里に帰って考えるつもりで、妻を先に帰し、まもなくわたしも帰りました。郷里には半年いました。その間、妻が桃枝を産みました。そして、こんどの勤め口が舞いこんできたときは、前とは逆に、わたしが先に上京し、あとから妻が子供をつれてやってきました。いまの会社の仕事は、楽でもなければ、辛くもありません。はじめは、なれない仕事で、辛いと思ったこともありましたが、二年も経つうちにはなれてしまいました。いまでは、すこしも辛いとは思わなくなっています。けれども、それかといって楽だとも思えないのは、毎日の仕事の単調さがしばしば厭気をそそるからです。辛い仕事でも、それをいやいやしているのは、楽ではありません。

帰りは五時に社を出て、アパートに着くのは六時ちょっと過ぎです。たまには上役や同僚たちと途中で一杯やることもあります。おそくても十時にはぬけ出して、郊外電車にのることにしています。

MIURA TETSUO, *Shinobugawa* (1970), pp. 144-45

運送 transportation. 発送課 despatching dept. 潰れる collapse. 残務整理 winding-up work. 勤め口 job opportunity. あて expectation. 郷里 home town. 桃枝 Momoe (name). 舞いこむ turn up. 単調さ monotony. そそる arouse. 上役 superiors.

